

■月刊東洋2009年下半期バックナンバー（11月～4月）

| | | |
|----------|----------|-----------------------------------|
| 2009年11月 | vol. 93 | 『ヒスタミン』って？ |
| 2009年12月 | vol. 94 | お知らせ |
| 2009年12月 | vol. 95 | 「水質検査研修及び施設見学」開催 |
| 2010年1月 | vol. 96 | 水質汚濁に係る環境基準の一部変更について |
| 2010年2月 | vol. 97 | 《割り箸》について考えてみませんか？ |
| 2010年2月 | vol. 98 | 「平成21年度 水道事業実務者セミナー」開催 |
| 2010年3月 | vol. 99 | 絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法マニュアルについてのお知らせ |
| 2010年4月 | vol. 100 | 改正土壤汚染対策法について |

■自社情報（NEWS & TOPICS）

2009年11月 刊行物『NESTA』を創刊
 2010年2月 水道事業実務者セミナーを開催
 2010年3月 透析用水及び透析液の水質検査 開始
 2010年5月 刊行物『NESTA』第2号発行



■自社活動

私たちは、環境調査の分野に従事しております。そこで、「環境問題について何かできることはないか」と考え、『エコ活動』を行っております。

【割り箸リサイクル活動】

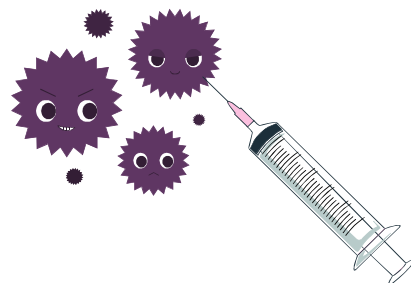
使用済みの割り箸を洗浄し、乾燥した後、回収ボックスに集めて、割り箸回収活動を行っている大手製紙メーカー様へ持参しています。集められた割り箸は、A4サイズのコピー用紙やティッシュ等加工されています。



今後は割り箸の使用を控え、各自で箸を持参する〔マイ箸運動〕を推進していきます。

【エコキャップ運動】

ペットボトルのキャップを回収し、大手卸売メーカー様へ持参しています。集まったボトルキャップは再資源業者に売却され、その売却金が世界の子供たちへのポリオワクチン購入資金として寄付されます。



<編集後記>

お陰様を持ちまして「NESTA」第3号を発行することができました。今回も各事業所、各課からの視点でテーマを決めました。皆さんは、環境に対して、どんな視点で、何をしていますか？そしてその先には何が見えますか？

《作成：企画・販促委員会》

目次

- ・地球の水資源について
- ・環境とエコ
- ・分析項目の歴史からみた環境問題への意識改革 BOD編
- ・私たち営業所の日

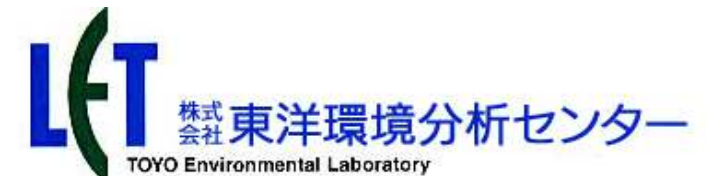
N ... nature &

E ... environment

S ... saving &

T ... thinking

A ... association



www.let-toyokankyo.com

食品検査は当センターへ

地球の水資源について

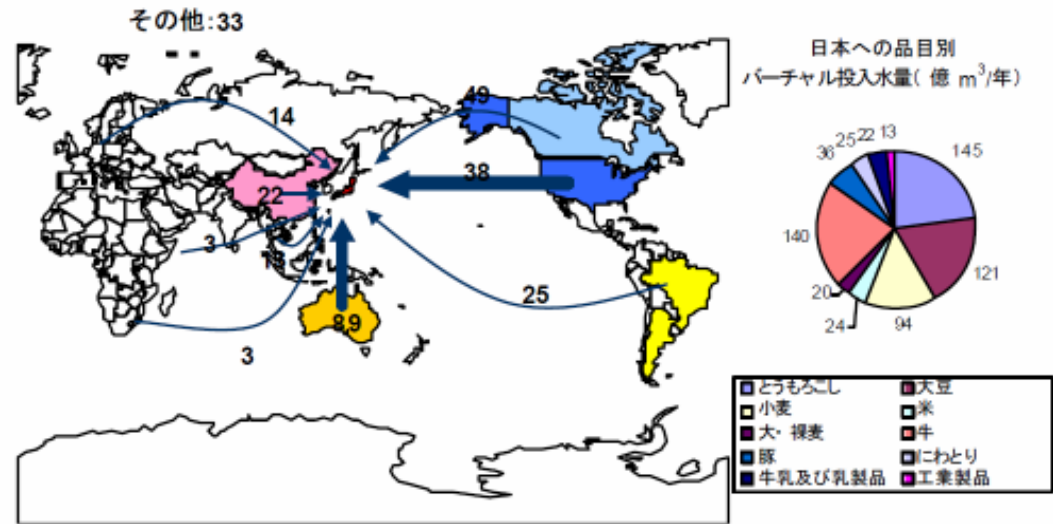
技術部 水道水検査グループ

地球は「水の惑星」と言われていますが、地球上の水の約97.5%は海水で、淡水はわずか2.5%しかありません。しかも、淡水のほとんどは南極や北極の氷として存在しており、飲み水として利用しやすい河川や湖沼などの水はたったの0.01%しかありません。このように限られた水資源は、河川や湖沼など目に見える水として地球上を循環していますが、これ以外にも世界の輸出入に伴って地球上を循環している水があります。

皆さんは、「バーチャルウォーター」という言葉をご存じですか？「バーチャルウォーター」とは、ある国が輸入している食糧や工業製品を仮に自国内で生産するとした場合に必要な水の量のことです。日本の食料自給率はたったの40%で食料のほとんどを輸入に頼っていますが、これはつまり、海外から食料という形で間接的に多量の水資源を輸入していることになるのです。

日本のバーチャルウォーター量は約640億m³/年で、これは日本国内で使用される年間水使用量に匹敵する量と言われています。また、日本だけでなく、中東等の水資源の少ない国もバーチャルウォーターをたくさん輸入しています。これは、一般的に農作物の生産には飲み水の約1,000倍もの水が必要とされるため、自国での生産を諦め、その分を飲み水や生活用水などに利用しているからです。このような国では、一人分の食料生産を諦めることで1,000人分の飲み水を確保しているのです。しかし、水資源の少ない国であってもバーチャルウォーターを輸入するお金がない国もあります。

現在、日本は多くの食料を輸入していますが、その一方で毎日多くの食料が捨てられており、一説には、日本の食糧廃棄量は世界の貧しい国々への食糧援助量の2倍に及ぶとも言われています。限りある水資源を有効活用するために、私たち一人一人が身近にできることから考えて実行したいものです。



日本のバーチャルウォーター総輸入量 (2000年度に対する食糧需給表の統計値より)

環境とエコ

技術部 業務課

私たちは、主に電話対応や報告書発行の業務を行っております。お客様からご依頼いただいた全ての情報・データは、システムに保存されており、守秘義務のもと管理しております。

アスベストや土壌汚染対策法による土壌分析のような、環境問題に対する関心が高い分析依頼も多くなっています。また、政令により平成28年7月までの期間で、PCB廃棄物の処分または処分を委託しなければならないと定められているためか、最近では絶縁油中のPCB検査の依頼が増えています。



弊社でも環境問題について考え、ペットボトルキャップ回収や使用済み割り箸の回収のエコ活動を行っています。これ以外に日々の業務を振り返ると、弊社では数年前から報告書には再生紙を使用したり、一度印刷をかけた紙の裏を再度使用したり、社内間の書類等の発送は、使い回しの封筒を使用しています。小さな事かもしれませんが、これからもこの活動を続けて行き、私たちの環境を守っていきたいと思います。



～分析項目の歴史からみた環境問題への意識改革 BOD編～



技術部 化学分析グループ

私たち、分析担当者は日々お客様からの分析依頼を受け分析を行っています。いつもお客様からご依頼を受ける分析項目にも歴史があり、現在に受け継がれている理由があります。今回は、「BOD（生物化学的酸素要求量）の歴史」に基づき環境問題への意識についても考えてみましょう。

「BOD」とは、biochemical oxygen demandの略称で、好気性微生物が一定期間に水中の有機物を酸化・分解する際に消費する溶存酸素の量を水質汚濁の指標として表したものです。

歴史上、産業革命とともに水質汚濁に直面したイギリスにおいて発案されたと言われています。現在の試験方法は1908年王立委員会（河川汚染と下水処理）により、河川を汚染する有機物に対する最適な試験方法として5日間法が選定され、その後下水処理場の河川放流基準として20mg/Lが採用された規定を引き継いでいます。（この5日間の根拠は、当時イギリス本土の河川は流達時間が最長で5日とされていたため、それはテムズ川のことと見られています）

日本には第二次大戦後アメリカから導入され、法令や基準に取り入れられました。現在では、水質環境レベルの指標として環境基準に用いられているのをはじめとして、排水の性状や水処理装置の性能を表すため、JIS規格、水質汚濁防止法や下水道法、建築基準法などに登場しています。

このように分析項目一つをみても、確立された歴史があり、過去の教訓が今現在に受け継がれていることを私たちは心に留めて置かなければなりません。つまり、100年以上前の先人も環境問題を考え、世界環境をより良くしていこうという精神を私たちは引き継がなければならないと思います。

「成功は決定的ではなく、失敗は致命的ではない。大切なのは勇気を持ち続けることだ。」（ウィンストン・チャーチル）

環境問題解決も同じことですね。

私たち営業所の日

営業部 大分営業所

今回は私たち大分営業所より「営業所の日」ということで大分営業所の担当者の一日を追いかけてみましょう！

8:15 出社

8:30～報告書・請求書の仕分け

9:00～お客様へ容器、ご報告書を届けます。

日によっては採水や商談等、月や曜日で一日の動きが目まぐるしく変わります。全てはお客様の為にスケジュール調整を行い、行動しております。



容器や報告書を積み込み、車輛点検後出発



お客様へのご報告と検体回収を行なう



海域調査を終えて笑顔

10:00～打ち合わせ

13:00～午後からは採水業務です。

浄化センターや工場の排水、水道法施設や特定建築物の採水、アスベスト気中濃度測定や騒音・振動測定業務等様々です。

18:00～この時間から営業所は検体の受付や搬送の準備で大忙しです。

お客様大切な検体をお預かりして、検査結果をお返すまで、そして日々のサービスの向上を目指して我々は努力しております。明日も大分県内を走り回る担当者でした。



検体の受付風景